

# SCHEDULE 10→12月

展示会スケジュール

2022	10月	11月	12月
<b>大阪市立自然史博物館</b> 大阪市東住吉区長居公園1-23 TEL:06-6697-6221 開館時間:9:30~17:00 11月~2月は16:30まで (入館は閉館の30分前まで) 休館日:月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、年末年始	<b>「第22回 こどものための ジオ・カーニバル」</b> 11/5・6 宇宙や気象、化石や鉱物まで、地学に特化した子ども向け体験型科学イベント。要申し込み。 <a href="http://geoca.org">http://geoca.org</a>	<b>特別展「大阪アンダーグラウンド リターンズ(仮)」</b> 11/19-20 <b>「大阪自然史フェスティバル2022」</b> 11/19-20 関西を中心とした自然史関連の団体・個人による市民参加型の文化祭です。ブース展示、参加型企画、講演会、講習会などを通して、市民のみなさんに自然に関わる楽しさをお伝えします。	<b>特別展「大阪アンダーグラウンド リターンズ(仮)」</b> 12/17~2/26 (予定)
	<b>プラネタリウム「宇宙美術館2022」</b> 最新の観測機器がとらえた芸術品のような宇宙のすがたを紹介しします。	<b>プラネタリウム「星の誕生」</b> 近年明らかになってきた星の誕生のしくみを紹介しします。	<b>企画展「鉱物の魅力」</b> 2022年は世界鉱物年です。美しく、形のはっきりとしたさまざまな鉱物標本を展示しします。鉱物の持つ個性や魅力を楽しんでください。
<b>大阪市立科学館</b> 大阪市北区中之島4-2-1 TEL:06-6444-5656 開館時間:9:30~17:00 (展示場入場は16:30まで、プラネタリウム最終投影は16:00から) 休館日:月曜(10/10は開館)、9/20,10/11,11/28~12/1、年末年始	<b>サイエンスショー「なが〜い分子!ポリマーであそぼう」</b> 分子が「くさり」のようになが〜くつながったポリマー。身近なものにも使われるポリマーで、スライムをつくらう!	<b>特別企画展「刀剣〜古代の武といのり〜」</b> 10/15~12/4 日本各地から出土した弥生〜古墳時代の刀剣類を通じて、その魅力と多様性、当時の社会のあり方に迫ります。	<b>特別企画展「刀剣〜古代の武といのり〜」</b> 10/15~12/4 埼玉県鴻巣市生出土塚遺跡出土の武人埴輪古墳時代後期(6世紀) 鴻巣市教育委員会蔵 国指定重要文化財
	<b>サイエンスショー「なが〜い分子!ポリマーであそぼう」</b> 分子が「くさり」のようになが〜くつながったポリマー。身近なものにも使われるポリマーで、スライムをつくらう!	<b>特別企画展「刀剣〜古代の武といのり〜」</b> 10/15~12/4 日本各地から出土した弥生〜古墳時代の刀剣類を通じて、その魅力と多様性、当時の社会のあり方に迫ります。	<b>特別企画展「刀剣〜古代の武といのり〜」</b> 10/15~12/4 日本各地から出土した弥生〜古墳時代の刀剣類を通じて、その魅力と多様性、当時の社会のあり方に迫ります。
<b>大阪歴史博物館</b> 大阪市中央区大手前4-1-32 TEL:06-6946-5728 開館時間:9:30~17:00 (入館は閉館の30分前まで) 休館日:火曜(祝日・休日の場合は翌平日)、年末年始	<b>特集展示「新発見!なにわの考古学2022」</b> 令和2年度~3年度に行われた大阪市内における発掘調査の最新成果を、遺物と写真パネルで紹介しします。 久留米藩蔵庫敷跡で出土した九州産土瓶と土師器皿 江戸時代(18世紀後半~19世紀初) 北区久留米藩蔵庫敷跡 大阪市教育委員会蔵	<b>特集展示「大阪近郊の農業 ―農具とわざの諸相―」</b> 11/16~1/23 都市大阪の周辺地域で営まれた農業について、農具や写真などの関連資料を展示し、そのあり方を考えます。	<b>特集展示「大阪近郊の農業 ―農具とわざの諸相―」</b> 11/16~1/23 都市大阪の周辺地域で営まれた農業について、農具や写真などの関連資料を展示し、そのあり方を考えます。
	<b>特別企画展「刀剣〜古代の武といのり〜」</b> 10/15~12/4 日本各地から出土した弥生〜古墳時代の刀剣類を通じて、その魅力と多様性、当時の社会のあり方に迫ります。	<b>特別企画展「刀剣〜古代の武といのり〜」</b> 10/15~12/4 日本各地から出土した弥生〜古墳時代の刀剣類を通じて、その魅力と多様性、当時の社会のあり方に迫ります。	<b>特別企画展「刀剣〜古代の武といのり〜」</b> 10/15~12/4 日本各地から出土した弥生〜古墳時代の刀剣類を通じて、その魅力と多様性、当時の社会のあり方に迫ります。
<b>大阪中之島美術館</b> 大阪市北区中之島4-3-1 TEL:06-6479-0550 開館時間:10:00~17:00 ※「展覧会 岡本太郎」「みんなのまち 大阪の肖像」【第2期】は10:00~18:00 (展覧会場への入場は閉場の30分前まで) 休館日:月曜、年末年始	<b>「ロートレックとミュシャ パリ時代の10年」</b> 10/15~1/9 パリ時代のグラフィック作品に着目し、1891年から1900年までの10年間に焦点を当て、その作品と活動を紹介しします。 アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック(ディヴァン・ジャポネ)1893年 サントリーポスターコレクション、大阪中之島美術館寄託	<b>大阪中之島美術館 国立国際美術館 共同企画「すべて未知の世界へ ― GUTAI 分化と統合」</b> 10/22~1/9 具体の活動拠点「グタイピナコテカ」が建設された地、大阪・中之島で開催される初の大規模な具体展です。 白髪一雄(ミスター ステラ)1958年 油彩、和紙・カンヴァス 大阪中之島美術館蔵	<b>大阪中之島美術館 国立国際美術館 共同企画「すべて未知の世界へ ― GUTAI 分化と統合」</b> 10/22~1/9 具体の活動拠点「グタイピナコテカ」が建設された地、大阪・中之島で開催される初の大規模な具体展です。 白髪一雄(ミスター ステラ)1958年 油彩、和紙・カンヴァス 大阪中之島美術館蔵
	<b>大阪中之島美術館 国立国際美術館 共同企画「すべて未知の世界へ ― GUTAI 分化と統合」</b> 10/22~1/9 具体の活動拠点「グタイピナコテカ」が建設された地、大阪・中之島で開催される初の大規模な具体展です。 白髪一雄(ミスター ステラ)1958年 油彩、和紙・カンヴァス 大阪中之島美術館蔵	<b>大阪中之島美術館 国立国際美術館 共同企画「すべて未知の世界へ ― GUTAI 分化と統合」</b> 10/22~1/9 具体の活動拠点「グタイピナコテカ」が建設された地、大阪・中之島で開催される初の大規模な具体展です。 白髪一雄(ミスター ステラ)1958年 油彩、和紙・カンヴァス 大阪中之島美術館蔵	<b>大阪中之島美術館 国立国際美術館 共同企画「すべて未知の世界へ ― GUTAI 分化と統合」</b> 10/22~1/9 具体の活動拠点「グタイピナコテカ」が建設された地、大阪・中之島で開催される初の大規模な具体展です。 白髪一雄(ミスター ステラ)1958年 油彩、和紙・カンヴァス 大阪中之島美術館蔵
<b>大阪市立美術館</b> 大阪市天王寺区茶臼山町1-82(天王寺公園内) TEL:06-6771-4874	<b>改修工事のため2025年春(予定)まで休館 ▶ 休館中もオンラインイベント開催予定!</b>		
	<b>大阪市立東洋陶磁美術館</b> 大阪市北区中之島1-1-26(中央公会堂東側) TEL:06-6223-0055	<b>改修工事のため2023年秋(予定)まで休館 ▶ イベントの詳細や視聴方法はWebでチェック!</b>	
<b>オンライン配信イベント「有料 要申込」</b> <b>日中国交正常化50周年記念講演会「大阪市立東洋陶磁美術館と中国文物展」</b> 11/7~ 講師:趙曉氏(展覧会企画コーディネーター)、小林仁(東洋陶磁美術館学芸課長代理)		<b>オンライン配信イベント「無料 申込不要」</b> <b>開館40周年記念対談</b> 11/7~ 名誉館長 伊藤都太郎×館長 守屋雅史 対談	

聖地!?!なイベント、ぞくぞく。

Webサイトもチェック!

# OSAKA MUSEUMS

VOL. 22  
2022.10→12  
TAKE FREE

見て、感じて、  
開け好奇心。

## 聖地巡礼

ミュージアムで



表紙

大阪歴史博物館展示場7階の《道頓堀角座》

## OSAKA MUSEUMS

次号vol.23は  
2022年12月発行予定です



「OSAKA MUSEUMS」vol.22 2022年9月20日発行  
 発行/地方独立行政法人 大阪市博物館機構  
 〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 大阪歴史博物館内  
 TEL:06-6940-4330(代表)  
 制作/株式会社ウィルコミュニケーションデザイン研究所



アンケートに  
ご協力ください



抽選でチケットをプレゼント!

## 原子核・素粒子研究の聖地

### 「コックロフト・ウォルトン型加速器」

#### 大阪市立科学館

湯川秀樹にも影響を与えた!?  
先端科学の街・大阪を伝える実験機。

大阪と言えば商業の街?お笑いの街?いえ、実は「先端科学の街」だったのです。その証拠が、大阪帝国大学(現 大阪大学)理学部に設置された「コックロフト・ウォルトン型加速器」。名前の由来である二人の学者が発明した原子核反応の実験機で、大阪帝国大学では発明からたった2年後の昭和9(1934)年、日本で初めてこの加速器を建造しました。

現在では物質の最小単位は素粒子であると解明されていますが、当時は原子核を含む素粒子のことがわかりはじめたばかりで、日本は他国に後れを取っていました。大阪帝国大学に集った若き学者たちは、いち早く設備を整え、未来に役立つ保証もない科学分野の道に突き進んだのです。同理学部に所属していた湯川秀樹は、昭和10



加速器を建造し、原子核研究の拠点を築いた核物理学者の菊池正士(写真中央)。

(1935)年に科学の常識を覆す「中間子論」を発表し、後年日本で初めてノーベル賞を受賞しますが、その研究の背景に「コックロフト・ウォルトン型加速器」の実験結果が用いられた可能性も。近年は、記憶に新しいニュートリノ振動の発見など世界最高水準と言われる日本の素粒子研究。道なき道を拓いた第一歩を、大阪市立科学館で見ることができます。

★4階「宇宙とその発見」フロアで展示中。



若き学者たちの熱量が築いた、物理学の礎。

# レアでコアな体験を。——「聖地」としてのミュージアム。

## デートに、肝試しに。墓を巡礼する庶民の娯楽。

### 大坂七墓めぐりの聖地

#### (梅田墓の発掘)

#### 大阪市文化財協会

これが聖地巡礼の起源!?  
江戸時代の暮らしを伝える墓の存在。

町人たちが木魚や鐘を手に、ポクポク・カンカンと音を鳴らしてあちらの墓からこちらの墓へ。これ、大坂の町で実際に行われていた「大坂七墓めぐり」という習わしです。お盆の時期に大坂の7箇所のお墓を巡

り、祖先や無縁仏を供養して極楽浄土を願うという、まさに“聖地を巡礼する”風習が江戸時代中期に流行。近松門左衛門の作品でも「大坂七墓めぐり」が取り上げられています。功德を積むためのものからデートや肝試しなどの娯楽に発展し、まるで観光ツアーのように夜通し墓地を賑やかに巡っていた集団もいたそうです。

この大坂七墓のひとつ、梅田墓は現在のうめきたエリアに存在した共同墓地で、近年の発掘調査によって墓の構造や仕様、埋葬状態、副葬品の種類など数々の事実が明

らかになってきました。石垣によって区切られた南側は木桶を使った埋葬ですが、北側は折り重なるように埋葬されていることから、流行病などによって一度に多くの死者を葬ったのではないかと推察されています。多くの人生を長年にわたって受け止めてきた江戸時代の墓地。今後の詳細な調査・分析によって、当時の庶民の暮らしがより鮮明になると期待されています。

★大阪歴史博物館  
「新発見!なにわの考古学2022」(~11/14)にて梅田墓の調査結果を公開中。



見つかった梅田墓の一部(北から)

## 理想の仏様の 変遷がわかる、 150件もの石仏。

### 中国石造彫刻の聖地

#### 大阪市立美術館

実業家山口謙四郎氏が愛し、  
集めた中国石造彫刻を  
譲り受け、国内最多の所蔵数。

丸々と太っていたり、全身が細かったりと、中国の石造彫刻には仏様のさまざまな姿が表現されています。この違いは、その時代、その地域の人々の理想の仏様が投影されているから。特に南北朝時代の北魏では、仏教によって領域支配を強化する国家政策に基づき、大都市・地方を問わず仏像が盛んに造られました。大きいものでは写真の如来三尊像で高さは実に170cm。裏側には像の制作に出資した人の姿や名前が彫られ、地方の村人たちが先祖供養のために造ったと考えられています。もうひとつの如来坐像の高さは30cm弱。衣類のシワや折り目が精密に表現され、どこから見ても完成度が高いことからかなり腕の立つ職人が造ったのでしょう。

大阪市立美術館が所蔵する中国石造彫刻は日本の美術館の中で最も多い約150件で、「中国石造彫刻の聖地」と言えます。所蔵品の多くは関西の財界人である山口謙四郎氏が集めたもので、戦時中は自邸の床下に保存して守り抜いたのだそう。この多種多様な姿を見比べると一体ごとの魅力が立ち上がり、山口氏が愛した理由が伝わってくるような気がします。

★改修工事のため  
9/26~2025年春(予定)まで休館。

《石造 如来坐像》北魏 天安元年(466)  
大阪市立美術館蔵(山口コレクション)  
世界に2つしか現存しない、西暦466年に造られた希少な如来坐像。皇后に連なる貴族が造らせたと考えられ、服のシワまで正確に表現する精巧さは凄い。↑



台座を含めて170cmもの高さの如来三尊像。村の人々が皆で資金を出し合い、先祖を供養するために折りを捧げたと考えられている。↑→



《石造 如来三尊像》北魏 景明元年(500)  
大阪市立美術館蔵(山口コレクション)

ミュージアムは「ココといえばコレ!」と言える希少な作品や展示物、文化財などをそれぞれ保有しています。コアなファンにはたまらないレアな体験ができる場所として、今号では各ミュージアムを「聖地」になぞらえ、ゆかりのエピソードとともに巡礼気分で紹介します。

梅田墓の発掘調査では、出土品も当時の習俗を知る重要な手がかり。酒器や子どもの玩具などの副葬品があり、蔵骨器(骨壺)には氏名・没年月日・地名が記載されたものも。



## 地面の下に隠された、大阪平野の自然の歴史。

### 氷河時代研究の聖地

大阪市立自然史博物館

海になったり陸になったり。  
大阪の歴史を包む、地下の世界。

大阪がかって海に覆われていたことをご存知ですか？自然史博物館の第2展示室にあるクジラの骨や貝殻は大阪の地下から掘り出されたもので、約6000年前の大阪平野に海が広がっていたことを示します。それより昔の2万年前には、現在の大阪平野と大阪湾にあたる部分は陸地でした。自然史博物館本館に入った所で皆さんを待ち構えているナウマンゾウやヤベオオツノジカはその頃まで日本列島に生息していた、大阪からも足跡化石が見つかっています。

実は、大阪平野が陸地になったり海になったりする変化が、120万年前以

降、数万～10万年周期で約20回繰り返されたことが、大阪の地層に記録されています。この変化は世界的な気候変動によるものです。寒冷期には高緯度地方や高山の氷河が大きくなって海水が減り、陸地が増えました。温暖期には氷河が溶けて海水が増え、海が広くなりました。260万年前から現在に至る気候変動の時代は氷河時代でもあります。大阪の地層やそこから見つかる動物や植物の化石で行われた研究から、氷河時代の自然の変化の歴史が明らかにされ、自然史博物館に展示されています。

★特別展「大阪アンダーグラウンド リターンズ(仮)」  
(12/17～2/26予定)にて  
大阪の地層や化石にまつわる資料を多数公開予定。



地下鉄工事で発見されたカツオクジラの頭骨。他にも大阪平野のさまざまな場所で発見されたクジラの骨を展示している。

ナウマンゾウ、ヤベオオツノジカの復元模型。足下の凹凸にも注目。実際に大阪市内で発見された足跡化石を型取りした模型を展示している。



### 関西前衛アート of 聖地

大阪中之島美術館

リーダー 吉原治良の作品数は世界最多。謎多き「具体」に出会う。

具体美術協会、通称「具体」とは、昭和29(1954)年に関西で結成された前衛アートの集団です。リーダーである吉原治良のもとに、新しい芸術を求める若い作家が次々と集まりました。その特殊性は、美術史や芸術論に一切とらわれず、「過去にないものを創る」ことの徹底。メンバーらは作品が完成すると必ず吉原のもとに見せに行ったといい、各々がオリジナリティを突き詰めた創作に邁進しました。こうした中で吉原自身も試行錯誤を重ねた後にたどり着いたのが円や線など

自由と独創を  
追い求め続けた「具体」の情熱。

の単純な形象。《作品(黒地に白丸)》の描画の境界線には修正が重ねられていることから、長い時間をかけて創作していることがわかります。

大阪中之島美術館が所蔵する吉原治良コレクションは世界最多の約800点と、まさに具体の聖地。何ものにもとられない自由な表現を追い求めた究極の作品は、具体解散から50年経った現在でも、私たちに鮮烈な印象を与えてくれます。

★大阪中之島美術館  
国立国際美術館 共同企画  
「すべて未知の世界へ  
— GUTAI 分化と統合」  
(10/22～1/9)にて公開予定。



吉原治良《作品C》1971年  
アクリル、カンヴァス  
大阪中之島美術館蔵



吉原治良《作品(黒地に白丸)》  
1967年 アクリル、カンヴァス  
大阪中之島美術館蔵  
180cm四方の大作であり、要素を極限まで減らすことで吉原ならではの空間意識が注ぎ込まれている。

華やかなりし道頓堀は、  
感動、涙、笑いの  
娯楽がいつばい。

### 芝居の聖地

(大正時代の  
道頓堀 角座)

大阪歴史博物館

人気役者、新旧さまざまな芝居に  
みんなが夢中になった劇場の街。

ひと昔前までは劇場街であった道頓堀の姿を体感できるのが、7階の道頓堀 角座です。江戸時代からの芝居町、道頓堀には劇場が建ち並び、角座は中座、浪花座とともに道頓堀五座に数えられ、ひときわ賑わいを見せていました。

この展示で再現されているのは、昭和15(1940)年の角座前の姿。大きくせり出した檼に掲げられた旗には「新装記念大歌舞伎」とあり、改装記念の歌舞伎興行初日を前に期待がふくらむ情景を演出していま



看板の文字も、当時の「上方勘亭流」で書かれている。

す。看板や提灯、通りを埋め尽くす横断旗が彩る華やかさは、写真をもとに細部まで忠実に再現されています。

この頃の道頓堀では、浪花座は軽演劇や演芸や映画、中座は歌舞伎を中心に新派劇や喜劇の松竹家庭劇、角座は新派劇を中心に松竹家庭劇や歌舞伎が興行されていました。NHK連続テレビ小説「おちよん」のモデルにもなった松竹家庭劇の旗揚げは昭和3(1928)年のこの角座。日本の「喜劇」のはじまりは、明治37(1904)年の浪花座での菅我道家兄弟劇とされ、現代の松竹新喜劇にまで続くので、道頓堀は伝統の芝居の聖地であり、また上方喜劇の聖地とも言えるかもしれません。ここにいと涙あり、笑いあり、さまざまな楽しみを求めて道頓堀や千日前に繰り出した当時の人々の気持ちになれるような気がします。

★7階「劇場のまち  
道頓堀・千日前」で展示中。

枕を花入に  
見立てた  
江戸の風流。

### 数寄者の聖地

大阪市立東洋陶磁美術館

枕の側面に穴をあけて花入に。  
その経緯に見える、数寄者の美学。

長方形のこの青磁。実は枕でありながら、日本においては茶席に飾る花を挿す器(花入)でもあります。こうした枕は12世紀頃の高麗で作られ、王室の官立宿泊施設で出土例があり、実際に高級日用品として用いられていたようです。この作品が日本に渡り、長い時間を経てたどり着いたのが京都の大徳寺芳春院。枕であったはずの本作品には片方の側面に四角く切り抜いた穴があり、日本へ伝来後にこの加工を施し、花入として使用していたと考えられています。

枕が花入に変わった謎を解くカギは箱書きに。外箱に「箱書きは小堀遠州が書いた」という意味の一文が記され、内箱には「青磁枕花入」とあ

ります。小堀遠州とは江戸時代初期の大名茶人であり、徳川時代の文化を作り上げた数寄者(風流人)の代表格。当時は朝鮮物や和物への評価が高く、道具を本来とは異なる用途に使う「見立て」が流行していました。もしかすると小堀遠州が枕に穴をあけるといって「趣向」を加えたのかもしれませんが。伝世品が少ない高麗陶磁の中でも貴重な本作品を保有するのは、やきもの聖地とも称される当美術館ならではの。江戸時代の粋な文化を感じるこの作品、まずはWebサイトをご覧ください。

★改修工事のため  
2023年秋(予定)まで休館中。



中央部がややくびれ、胴部には二羽の鶴を浮き彫りに。江戸時代の箱書きを伴う高麗青磁はかなり珍しく、長い歴史の中をくぐりぬけた貴重性を感じられる。  
青磁彫刻 双鶴文 枕  
住友グループ寄贈(安宅コレクション)  
写真:六田 知弘

いろいろな角度から  
作品をチエック!



# COLLECTOR'S EYE

古代の都、大阪に実在したモノを  
刺繍のアクセサリーにアレンジ。

新都・難波宮に集まった物産品ブローチ  
3種 / 各1,210円(税込)

飛鳥時代から奈良時代にかけて、日本の都であった大阪を伝えたいという思いから、難波宮にちなんだ産物をブローチにしてグッズ化。<和同開珎とスモモと瓢箪><稲と紅花>といったユニークなモチーフながら、フェリシモ社とのコラボによって刺繍の仕立てのかわいいデザインに。古代の大阪にあったモノを身につけるという面白さで、贈り物にもぴったり。

大阪歴史博物館

コレクターズアイ  
これはレア!



和同開珎とスモモと瓢箪

黒鯛と山椒とあわび玉

稲と紅花

3つ揃えたくなる不思議なかわいさ!

白い肌に真剣な表情。  
柿右衛門様式のはっけよい。

《色絵 相撲人形》江戸時代  
(1680年代頃)

江戸時代に有田で製作された、柿右衛門様式と呼ばれる色絵の作品。つやつやとした白い肌に華やかなまわしによっていきいきと相撲をとる様子を感じられます。注目したいのはどこか余裕がありつつ真剣な2人の表情。熱い取り組みの続きは、こちらのオープンデータからぜひ。

大阪市立東洋陶磁美術館

推したくなる!

ミュージアム



どっちがコッタ?!



《色絵 相撲人形》  
江戸時代(1680年代頃)  
大阪市立東洋陶磁美術館蔵  
写真:西川 茂

まだある!  
ユニークで何か気になる  
ミュージアムの  
推しなコト。



ミュージアムの推しごと

知りたい気持ちに  
学芸員がお答え!

屋根に巣をつくりかけた鳩が  
カラスの声をきっかけに  
逃げ出した。そのワケは?

Q 鳩はカラスが嫌いな? (10代)

A 屋根に巣をつくりかけたのなら、おそらくドバトでしょう。ドバトはカラスが嫌いだと思います。ドバトに限らず、街中の多くの鳥にとって、カラスは卵やヒナの一番の捕食者です。カラスが近くをウロウロしているということは、繁殖が失敗する可能性が高いということです。またカラスは、ドバトの親鳥でさえも捕まえて食べることがあります。

回答担当:和田 岳さん(学芸員)



大阪市立自然史博物館

みんなで作り上げている。  
ミュージアムのお仕事



ユニークな商品が多いので、帰省のお土産にすると喜ばれます!

実は前身の電気科学館時代からのファン。ここで働くことが夢でした!

総務企画課 サービス担当副主任 西岡 直子さん(左)、 曾我部 孝子さん(右)

名作・名品のウラ側を探る!

# 推しの真相



アンリドトゥールーズ=ロートレック(サロン・デ・サン 54号室の女性船客(第3ステート))1895年 サントリーポスターコレクション、大阪中之島美術館寄託

アルフォンス・ミュシャ(サロン・デ・サン 作品展)1897年 サントリーポスターコレクション、大阪中之島美術館寄託

新しい芸術を生んだ2人が見つけた、よき時代のパリの女性、風景。

ロートレックとミュシャの「サロン・デ・サン」のポスター

「よき時代(ベル・エポック)」と称された1900年前後のパリ。新たな芸術として「街角の芸術」である石版画ポスターが脚光を浴びたのもこの時代で、たくさんの才能が集まるパリにロートレックとミュシャもいました。幼い頃から絵を描くのが好きだったロートレックは、本格的に画家の道を志しパリの画塾へ。一方チェコに生まれたミュシャも美術学校で学ぶためにパリの地を踏みます。ミュシャは経済的支援が打ち切られたことをきっかけに挿絵画家として生計を立てるようになりますが、そんな中、美術の展示会である「サロン・デ・サン」の主宰者であるレオン・デシャンが2人に着目。ロートレックの版画作品を見初めてポスターに転用し、ミュシャは「サロン・デ・サン」を主催する雑誌『ラ・プリュム(羽ペン)』から、羽をモチーフにした作品を提供しました。レオンによって紹介された2人は、その後ますます時代の寵児として活躍。2人に直接的な交流があったかは定かではありませんが、ロートレックとミュシャがパリで情熱を注いだ10年間の作品が一堂に会す展覧会では、線や色の違いや女性の描写の特徴などを比較しながらそれぞれの作風を味わうことができます。

「ロートレックとミュシャ パリ時代の10年」の詳細は8ページへ▶▶▶

美術鑑賞へのときめきを高める  
クリスタルガラスの輝き。

エントランスホールのシャンデリア

昭和11(1936)年に開館された日本で3番目の公立美術館である大阪市立美術館。コンサートを開催することもあった荘厳なエントランスホールで目をひくのは、天井に輝く大きなシャンデリアです。その輝きは72個の100W白熱球に、クリスタルガラス206個によるもの。数多くのゲストをお迎えしてきたこのシャンデリアは、美術鑑賞に向かうときめきを、一層高めてくれる存在でした。

大阪市立美術館



もっとも見どころ

映えなView

リニューアル後は撤収。。。この美しさをみんなの記憶のViewに。

大阪市文化財協会

発掘調査によって出土した大阪の文化財を見ることができる!



〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-6-41  
開館時間 / 9:00~17:00  
休館日 / 土曜・日曜・祝日、年末年始  
見学は電話での事前予約をお願いします。  
TEL:06-6943-6833